2023年10月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年９月14日

上 場 会 社 名　株式会社ＣＡＩＣＡ ＤＩＧＩＴＡＬ　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　2315　URL　https://www.caica.jp
代　表　者　(役職名)代表取締役社長　(氏名)鈴木　伸
問合せ先責任者　(役職名)代表取締役副社長　(氏名)山口　健治　(TEL)03(5657)3000
四半期報告書提出予定日　2023年９月14日　配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

１．　2023年10月期第３四半期の連結業績（2022年11月１日～2023年７月31日）

（１）連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年10月期第３四半期	3,950	△21.6	△1,937	―	△2,091	―	△1,904	―
2022年10月期第３四半期	5,035	17.9	△563	―	△569	―	△13	―

(注)　包括利益　2023年10月期第３四半期 △2,143百万円（ ― %）2022年10月期第３四半期　22百万円（ ― %）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
2023年10月期第３四半期	△15 79	―
2022年10月期第３四半期	△0 12	―

(注)　潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、１株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年10月期第３四半期	65,334	3,866	5.9
2022年10月期	59,032	5,152	8.3

(参考)自己資本　2023年10月期第３四半期　3,828百万円　2022年10月期　4,887百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
2022年10月期	―	0 00	―	0 00	0 00
2023年10月期	―	0 00	―		
2023年10月期(予想)				―	―

(注)　直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
2023年10月期の期末配当予想につきましては、現時点では未定であります。

３．2023年10月期の連結業績予想（2022年11月１日～2023年10月31日）

当社グループは「ITサービス事業」と「金融サービス事業」を展開しております。この内「金融サービス事業」は、経済情勢や暗号資産市場等の環境の影響を受けることから、業績予想を行うことが困難であるため、連結業績予想を非開示とさせて頂いております。

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　：　無

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規　―　社（社名）　、除外　―　社（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年10月期３Ｑ	129,269,094株	2022年10月期	114,269,094株
②　期末自己株式数	2023年10月期３Ｑ	118,810株	2022年10月期	103,785株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2023年10月期３Ｑ	120,592,683株	2022年10月期３Ｑ	114,180,634株

※　四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

詳細につきましては、添付資料４ページ「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご欄ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 ……2
（１）経営成績に関する説明 ……2
（２）財政状態に関する説明 ……4
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 ……4
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 ……5
（１）四半期連結貸借対照表 ……5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ……7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 ……9
（継続企業の前提に関する注記） ……9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） ……10
（セグメント情報等） ……10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間（2022年11月１日～2023年７月31日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に係る行動制限の緩和等に伴い、社会経済活動の正常化が進展し、回復の兆しが見られたものの、ウクライナ情勢の長期化による原材料価格や原油価格の高騰、インフレ警戒から世界的な金融引き締め等による景気後退懸念等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが事業を展開するITサービス業界及び金融サービス業界は、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、新たな生活様式が定着していく中で、さらなるデジタルトランスフォーメーションが進むことが予想されます。

このような状況の下、ITサービス事業においては、大手SIer等の既存顧客からの受注の拡大に加え、一次請け比率の向上に努めました。金融サービス事業においては、ブロックチェーンや暗号資産交換所「Zaif」運営の知見を活かし、今後拡大が見込まれるWeb3事業の成長を図っております。第一弾である「NFT事業」に続き、Web3インフラサービス、ステーキングサービスの「Web3 BaaS事業」、ウォレット提供、投げ銭提供の「決済代行事業」、Web3コミュニティ支援の「Web3事業支援」を推進してまいります。

また、これまで業績面、キャッシュ・フロー面で大幅なマイナスの影響をもたらしていた金融サービス事業の在り方を見直し、カイカ証券において業態転換を図るべく、現在、既存商品の早期終了を進めております。

当第３四半期連結累計期間における売上高は3,950百万円（前年同四半期比21.6％減）となりました。ＣＡＩＣＡテクノロジーズにおけるシステム開発が堅調であった一方、カイカ証券における既存商品のサービス終了や、暗号資産交換所「Zaif」を運営するカイカエクスチェンジ及び暗号資産レンディングサービスや暗号資産の投融資・運用を行う株式会社カイカキャピタル（以下、「カイカキャピタル」といいます。）においては、軟調となりました。

利益面につきましては、前期にカイカエクスチェンジののれんの全額減損処理を行ったことにより、当期から当該のれんの償却額が発生しなくなったことに加え、グループ全体で経費の圧縮に努めたものの、売上高の減少を補いきれませんでした。この結果、営業損失は1,937百万円（前年同四半期は営業損失563百万円）となりました。経常損失は、当第３四半期連結累計期間に当社子会社が保有する投資有価証券のうち、将来の期間にわたって実質価額の低下の状態が続くと予想されるものについて減損処理を行い、投資有価証券評価損76百万円を営業外費用に計上したこと、また、当社子会社の長期貸付金及び長期未収利息について、貸付先の経営状況及び財務状況に関して検討した結果、当該債権に対する貸倒引当金繰入額79百万円を営業外費用に計上したこと等により、2,091百万円(前年同四半期は経常損失569百万円)となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は1,904百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失13百万円）となりました。

セグメントごとの業績は以下のとおりであります。

１）ITサービス事業

システム開発を担うＣＡＩＣＡテクノロジーズの売上高は前年同四半期を上回っておりますが、利益面では主にシステム開発にかかる原価率の上昇により前年同四半期を下回って進捗しております。

金融機関向けのシステム開発分野は引き続き順調であり、一次請けである保険会社向け案件の売上高が拡大するとともに、銀行向け案件において、一次ベンダーからのメガバンク案件を中心に引き合い、受注がともに拡大しております。

非金融向けシステム開発分野は、顧客の事業拡大意欲が強く、IT投資も依然継続されており、大手SIer等の既存顧客からの受注は堅調に推移している一方で、新規受注の獲得はやや低調となりました。現在、業界を問わない先端技術の開発提案や、リソースの最適化による改善策を実施しております。

フィンテック関連のシステム開発分野は、決済系の案件を中心に安定的に受注を獲得しております。また、受注には至っていないものの、既存顧客以外の暗号資産交換所システムの引き合いが複数件あり、現在商談を進めております。

また、当第３四半期連結累計期間において、エンドユーザーのセキュリティリテラシーを向上させる「CAICA Security Training/標的型メール訓練サービス」の販売を開始いたしました。ニーズの急増に対応するため、７月にＣＡＩＣＡテクノロジーズのウェブサイトに特設ページを設け、ユーザーからのお問い合わせに迅速に対応するなど販売を強化しております。また、Web3事業に参入する企業を支援する、セミオーダー型

NFTマーケットプレイス開発サービスの販売を開始いたしました。ＣＡＩＣＡテクノロジーズでは、今後も引き続き自社ソリューションの提供を推進してまいります。

一方、業界全体の課題でもありますが、優秀なエンジニアの獲得競争は激しさを増しております。ＣＡＩＣＡテクノロジーズにおいても、人材獲得手法や採用体系の多角化に努め、一般とスペシャリストの処遇体系を整備するとともに、パートナー企業との連携にも注力しております。

これらの結果、ITサービス事業の売上高は、4,118百万円（前年同四半期比5.9％増）、営業利益は282百万円（前年同四半期比44.0％減）となりました。

２）金融サービス事業

当社におきましては、当第３四半期連結累計期間は、特筆すべき暗号資産の投融資・運用は行っておりません。当社発行の暗号資産であるカイカコインにつきましては、先般立ち上げを発表したCAICA Verseにて、カイカコインを活用してブロックチェーンゲームを楽しめる予定であり、Zaifにてカイカコインを売却することによりシームレスな現金化が可能となる予定です。また、カイカコインホルダーがブロックチェーンゲームに参加することで新規ユーザーが増加することを見込んでおります。CAICA Verseは、ゲーム運営企業にとって、独自のトークンを発行することなく、ブロックチェーンゲームを運営することができる革新的なビジネスモデルです。

カイカフィナンシャルホールディングスが運営するZaif INOの売上高は、NFTの販売高に応じた販売手数料を収益源としております。第１四半期連結会計期間にスタートした事業でありますため、連結業績への寄与は、しばらく時間を要しますが、NFTの販売は着実に実績を積み重ねております。また、2023年５月に、凸版印刷株式会社とWeb3領域におけるNFT活用の連携を発表いたしました。凸版印刷株式会社には「Zaif INO」の認定代理店として法人向け新規出品者の開拓から出品NFTのPRまでをワンストップでサポートして頂きます。

カイカ証券におきましては、これまで独自のワラント商品に加え、暗号資産関連商品の取り扱いを拡充してまいりましたが、海外の大手暗号資産交換所の経営破綻などを発端とする暗号資産相場の乱調をはじめ、デリバティブ派生商品に対する投資家の意欲の衰退などからカイカ証券の提供する商品の拡充ができなかったうえ、取引量も伸び悩んでおりました。こうした外部環境やカバードワラント事業の高コスト体質を考慮した結果、業態転換を図るべく、現在、既存商品の早期終了を進めております。

カイカエクスチェンジの売上高は主に暗号資産交換所「Zaif」における受入手数料や暗号資産売買の損益で構成されております。当第３四半期連結累計期間においては、暗号資産市場全体の取引高が低迷している影響を受け、厳しい環境が続いており、手数料・暗号資産売買ともに軟調となりました。カイカエクスチェンジでは現在、暗号資産市場の影響を受けづらいストック型収益の比率を上げることで安定基盤の構築を図っております。なかでも「自動売買おてがるトレード」が好調であり、利用者が増加しております。また、2023年７月に「暗号資産FX」のサービスを廃止いたしました。これによりサービス維持のためのコストが圧縮できる見込みです。加えて、2023年１月に、暗号資産トロン（TRX）、３月にポリゴン/ マティック（MATIC）、４月に、ゲンソキシメタバース（MV）及びロンドコイン（ROND）の取り扱いを開始いたしました。また、８月にクレイトン（KLAY）、10月にマーブレックス（MBX）の取り扱いを開始することを決定いたしました。今後も、GameFi領域に特化したものなど、取り扱う暗号資産を厳選し、他社との差別化を図ってまいります。

カイカキャピタルにおきましては、レンディングサービスを活発化させており、現在、ビットコイン（BTC）、シンボル（XYM）、カイカコイン（CICC）の募集を定期的に行っております。暗号資産の投融資・運用につきましては、暗号資産の価格の推移を見極め、慎重にトレーディングを行ってまいりましたが、当第３四半期連結累計期間においては、保有する暗号資産の評価損を計上しております。

これらの結果、金融サービス事業の売上高は△151百万円（前年同四半期は1,338百万円）、営業損失は1,939百万円（前年同四半期は営業損失789百万円）となりました。

３）その他

その他につきましては、暗号資産コンテンツの提供を行うメディア事業で構成されており、売上高は４百万円（前年同四半期比57.6％減）、営業利益は４百万円（前年同四半期比57.6％減）となりました。

（２）財政状態に関する説明

＜資産、負債及び純資産の状況＞

当第３四半期連結会計期間末における総資産は65,334百万円（前連結会計年度比10.7％増）となりました。これは主に、利用者暗号資産が10,285百万円増加したことなどによるものであります。

当第３四半期連結会計期間末における負債は61,468百万円（前連結会計年度比14.1％増）となりました。これは主に、預り暗号資産が10,285百万円増加したことなどによるものであります。

当第３四半期連結会計期間末における純資産は3,866百万円(前連結会計年度比25.0％減)となりました。これは主に、当第３四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純損失により利益剰余金が減少したこと、行使価額修正条項付株式会社ＣＡＩＣＡ ＤＩＧＩＴＡＬ第３回新株予約権の一部権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ429百万円増加したことなどによるものであります。

以上のとおり、当第３四半期連結会計期間末においては、自己資本比率が5.9％（前連結会計年度末8.3％）となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは「ITサービス事業」と「金融サービス事業」を展開しております。その内「金融サービス事業」は、経済情勢や暗号資産市場等の環境の影響を受けることから、業績予想を行うことが困難であるため、連結業績予想を非開示とさせていただいております。

ITサービス事業においては、大手SIer等の既存顧客からの受注の拡大に加え、一次請けの比率を向上することで、より一段高い収益貢献を目指してまいります。

金融サービス事業においては、ブロックチェーンや暗号資産交換所「Zaif」運営の知見を活かし、今後拡大が見込まれるWeb3事業での成長を図ってまいります。また、これまで業績面、キャッシュ・フロー面で大幅なマイナスの影響をもたらしていた金融サービス事業の在り方について、抜本的に見直しを行っております。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2022年10月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2023年７月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,671,569	1,589,584
預託金	9,133,000	6,898,000
売掛金	830,966	902,954
商品	4,781	976
仕掛品	2,496	13,303
自己保有暗号資産	1,590,758	1,237,050
利用者暗号資産	43,196,636	53,482,190
短期貸付金	20,000	－
未収入金	171,751	148,852
預け金	414,242	364,473
その他	186,924	95,631
流動資産合計	58,223,128	64,733,017
固定資産		
有形固定資産	55,090	53,147
無形固定資産		
ソフトウエア	1,224	14,195
その他	11,241	7,566
無形固定資産合計	12,466	21,761
投資その他の資産		
投資有価証券	525,219	369,163
出資金	60,826	58,420
長期貸付金	285,503	300,603
その他	91,847	94,324
貸倒引当金	△221,285	△295,636
投資その他の資産合計	742,111	526,875
固定資産合計	809,669	601,785
資産合計	59,032,797	65,334,802

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2022年10月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2023年７月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	265,464	249,269
1年内返済予定の長期借入金	180,000	－
1年内償還予定の社債	140,000	120,000
未払金	267,946	278,961
預り金	8,855,948	6,752,269
預り暗号資産	43,196,636	53,482,190
借入暗号資産	242,387	175,638
未払法人税等	46,120	8,775
未払消費税等	46,661	53,503
賞与引当金	151,520	73,224
その他	221,643	263,502
流動負債合計	53,614,330	61,457,333
固定負債		
社債	70,000	－
長期借入金	180,000	－
繰延税金負債	474	376
その他	15,193	10,975
固定負債合計	265,667	11,351
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	8	8
特別法上の準備金合計	8	8
負債合計	53,880,006	61,468,694
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	479,144
資本剰余金	12,145,310	12,578,787
利益剰余金	△7,243,833	△9,147,924
自己株式	△103,867	△104,985
株主資本合計	4,847,609	3,805,022
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△63,199	△76,684
為替換算調整勘定	102,665	100,444
その他の包括利益累計額合計	39,465	23,760
新株予約権	3,731	3,731
非支配株主持分	261,984	33,594
純資産合計	5,152,790	3,866,108
負債純資産合計	59,032,797	65,334,802

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2021年11月１日 至 2022年７月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2022年11月１日 至 2023年７月31日）
売上高	5,035,867	3,950,096
売上原価	3,037,021	3,639,414
売上総利益	1,998,845	310,681
販売費及び一般管理費	2,562,432	2,248,021
営業損失（△）	△563,586	△1,937,339
営業外収益		
受取利息	3,389	8,482
受取配当金	2,983	2,983
貸倒引当金戻入額	－	4,900
賞与引当金戻入額	3,834	－
その他	1,977	4,378
営業外収益合計	12,185	20,744
営業外費用		
支払利息	4,307	1,827
投資有価証券評価損	－	76,408
有価証券売却損	－	15,862
支払手数料	4,982	1,452
株式交付費	3,376	－
貸倒引当金繰入額	－	79,250
その他	5,643	0
営業外費用合計	18,309	174,801
経常損失（△）	△569,711	△2,091,395
特別利益		
貸倒引当金戻入額	7,598	－
償却債権取立益	150,000	－
負ののれん発生益	637	－
子会社清算益	－	1,461
受取和解金	550,837	－
特別利益合計	709,072	1,461
特別損失		
投資有価証券評価損	－	24,807
特別損失合計	－	24,807
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	139,361	△2,114,742
法人税、住民税及び事業税	93,010	13,405
法人税等合計	93,010	13,405
四半期純利益又は四半期純損失（△）	46,350	△2,128,147
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	60,115	△224,056
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△13,764	△1,904,091

四半期連結包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2021年11月１日 至 2022年７月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2022年11月１日 至 2023年７月31日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	46,350	△2,128,147
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△24,758	△13,484
為替換算調整勘定	1,081	△2,220
その他の包括利益合計	△23,676	△15,705
四半期包括利益	22,674	△2,143,853
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△37,441	△1,919,796
非支配株主に係る四半期包括利益	60,115	△224,056

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

行使価額修正条項付株式会社ＣＡＩＣＡ　ＤＩＧＩＴＡＬ第３回新株予約権の一部権利行使により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ429,144千円増加しております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間(自　2021年11月１日　至　2022年７月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）１	合計
	ITサービス事業	金融サービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,687,307	1,338,049	5,025,357	10,509	5,035,867
セグメント間の内部売上高又は振替高	202,133	―	202,133	―	202,133
計	3,889,441	1,338,049	5,227,491	10,509	5,238,001
セグメント利益又は損失(△)	504,338	△789,915	△285,577	10,509	△275,068

	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
売上高		
外部顧客への売上高	―	5,035,867
セグメント間の内部売上高又は振替高	△202,133	―
計	△202,133	5,035,867
セグメント利益又は損失(△)	△288,518	△563,586

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メディア事業を含んでおります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額は、セグメント間取引消去の△24,228千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△264,290千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運用に係る費用であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

当第３四半期連結会計期間より、新規でメディア事業を開始しており、当該事業の開始により、報告セグメントには含まれない「その他」を追加しております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間(自　2022年11月１日　至　2023年７月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他 (注)１	合計
	ITサービス事業	金融サービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,101,963	△156,321	3,945,642	4,454	3,950,096
セグメント間の内部売上高又は振替高	16,454	5,000	21,454	―	21,454
計	4,118,418	△151,321	3,967,096	4,454	3,971,551
セグメント利益又は損失(△)	282,638	△1,939,317	△1,656,678	4,454	△1,652,224

	調整額 (注)２	四半期連結損益計算書計上額 (注)３
売上高		
外部顧客への売上高	―	3,950,096
セグメント間の内部売上高又は振替高	△21,454	―
計	△21,454	3,950,096
セグメント利益又は損失(△)	△285,115	△1,937,339

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メディア事業を含んでおります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額は、セグメント間取引消去の442千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△285,558千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運用に係る費用であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。